

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名:全学覚書に基づく交換留学)

所属学部/研究科・学年(留学時):教養学部総合社会科学科国際関係論分科 4年

留学先大学・学部/研究科等:ブリティッシュコロンビア大学教養学部

留学期間:2011年 9月 ~ 2011年 12月

卒業・修了後の就職希望先:民間企業

1. 留学先大学の概要

ブリティッシュコロンビア州バンクーバーに位置するカナダでトップ 3に入る総合大学。学部では商学や文化人類学、林野学などの分野が特に有名。その国際性も特色の一つであり、130 数カ国、3500 名以上の留学生がキャンパスで学んでいる。多くの学生がキャンパス内の寮に住んでおり、自然あふれるキャンパスで生活できるのも魅力の一つ。

2. 留学の動機

東アジアにおける経済連携に関心があり、問題を考える上で土台となる経済学を英語でインテンシヴに学ぶことのできる環境が魅力的だった。また移民の多いバンクーバーは文化的に多様な人びとが住んでおり、この都市で多文化共生に触れながら生活することは、日本がこれから異文化をどう受け入れるかを考える上でも意義があると思った。

3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的には留学先大学から送られてくるメールにしたがって手続きを進めていけば問題ない。授業登録や寮申請など複数の手続きが別々のタイムラインで進んでいくので、締め切りなどは入念に確認しておくことが必要。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

一学期のみの留学だったので不要だった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に行わなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

カナダ国内の保険は大学で強制加入させられる。この他にクレジットカード保険に入っていた。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

本来は卒業論文の執筆を行う時期に留学をすることになったので、事前に学科の先生から了承をもらい、留学先で執筆しながらアドバイスをもらえる体制を整えた。また卒業論文の題目変更の手続きについても、予め学科の事務の方に確認をとった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学前の英語レベルは TOEFLiBT100 程度だったが、経済学の授業はエッセイなどを書くことがなかったのもあり、特に不自由はなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

バンクーバーは基本的に何でも手に入るが、薬などは日本から持っていった方が安心だと思う。またスマートフォンもしくは iPod Touch を持って行くと、キャンパス中で無線 LAN が使えるため、日本にいるときとほとんど同じように使えて便利。

4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

大学内の寮に申請を行い、3人のルームメイトと生活をした。家賃は電気代、水道代などを全て含め4ヶ月で2575ドル。部屋は4LDKで2つトイレがあり、全く不自由はなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は9月までは晴れが多いもののそれ以降は雨が多い。キャンパス内で生活に必要なものはほぼ全て手に入るが、広いので自転車があると便利。市街地へはバスで2,30分。食事は自炊をする学生が多いが、私の場合はほとんどを外食ですませた。お金は現金を持っていった他、一度両親に送金をしてもらった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

キャンパス内は基本的に安全。ただしバンクーバー東部などは治安が悪いと言われているので一人では行かないようにした。医療機関は一度も使わなかったが、キャンパス内に病院がある。最初の2ヶ月は慣れない生活でストレスが溜まるので、睡眠を多くとるよう心がけた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

月15万円。家賃が約6万、食費が約7万、その他日用品の購入や娯楽費などで約2万。私の場合は外食が多かったので、自炊をすればもっと節約できると思う。交通費については、市内のバスを自由に使えるパスの購入が予め学費に含まれているので、旅行をしない限りかからない。

・留学に要した費用総額とその内訳

およそ100万。生活費が計60万で、航空賃が約20万。残りの20万が旅行費や教科書代、自転車の購入など。教科書だけで5,6万は使ったと思うのだが、Amazonで購入するなど節約の工夫をすればよかったと思った。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

東京大学国際学術交流活動等奨励事業 2011年度海外派遣奨励費(海外留学支援金)「長島雅則奨学基金」奨学金より、月10万円の支給を受けた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

週末は卒業論文の執筆をしていたのであまり多くの活動はしていないが、現地の学生や留学生と、TEDという英語プレゼンテーションを聞きながらディスカッションをする、という取り組みを毎週行っていた。英語でディスカッションをする練習になった他、様々なバックグラウンドを持つ学生の意見を聞くことができ、大変役立った。その他休暇などを利用して、アメリカ西海岸を三度訪れた。

⑦留学中の就職活動等への対策(行った場合)

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)
中級ミクロ経済、中級マクロ経済、初等統計応用。その他、国際関係理論と中国の軍事史の授業を聴講した。

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

経済および統計の授業は週 2-3 回の授業に加え、問題を解く TA セッションが週 1 回あった。この TA セッションを復習として活用した。どの授業も中間試験に加えて課題もしくは小テストが 3,4 回あり、これらに真剣に取り組むことで授業内容が定着した。印象に残っている授業は聴講していた中国の軍事史の授業で、欧米のアカデミアや学生が中国をどのように捉えているかが垣間見え、面白かった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

履修科目は 3 で単位数は 9。その他 2 つの科目を聴講していた。履修した授業の時間は計 12 時間、聴講していた授業の時間は計 6 時間で全て出席した。授業以外の学習時間は、履修した授業で週 15 時間、聴講していた授業で週 5 時間。

④学習・研究面でのアドバイス

授業で現地の学生の友達を作るのがいいと思う。日本の授業とは学習の方法などが違うので、現地の友達に教えてもらいながら学ぶのが最も効率的。また当たり前のことだが、とにかく授業に全て出席し、わからないことは先生に質問してその日の内にクリアにしておくことが重要。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

経済学や統計学は試験や課題でも長々と文章を書いて論じる必要がなく、授業も図や数式で理解ができたので、あまり苦勞しなかった。ただし聴講していた授業、特に国際関係理論の授業は使う語彙が難しく、授業についていけないことも多かった。与えられた読書課題をこなすなどの準備をもっとしっかりすればよかったと思った。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

実際に使ったことはほとんどないが、あらゆるサポート体制が開かれており、いつでも相談をすることができる。学期はじめの留学生向けオリエンテーションでこれらのサポート体制に対する説明が丁寧に行われていたため活用方法なども学生に伝わっており、大変親切だと思った。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は複数あり、メインの図書館は通常は深夜 1 時、試験前は 24 時間開館しており、夜遅くまで勉強するのにとても助かった。ほとんど利用しなかったがスポーツ施設もしっかり設備されている。食堂も複数あるが、東大とは違い値段が高く、あまり健康的でないメニューが多い。無線 LAN はキャンパス内のほとんどの場所で使用可能で、図書館にも PC が設置されている。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

一番の学びは、現地の学生および世界中からくる留学生と友達になれたことだと思う。学生会議などで数日間会うだけではなく、同じキャンパスで生活することで見えてくる彼らのキャラクター、それらと相対化して見えてくる自分自身のキャラクターなどを知れたのが貴重な経験だった。この経験を通じて、より多様な価値観を受け入れることができるようになり、視野が広がったと思う。また、日本での大学生活やそれに伴う交友関係から一度切り離されて、勉強に4ヶ月間たっぷり集中できたことも非常に意義が大きかったと考えている。

②留学後の予定

4月より外資系コンサルティングファームに就職予定。3年勤務をした後、米国のプロフェッショナルスクールへ留学する予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

現地にも日本人を含め留学生が多くいましたが、必ずしも全員が満足した生活を送れていたわけではありませんでした。留学の成否を分ける一つのポイントは、具体的な目標を持ち、目標を実現するために何をすべきかを明確にしているかどうか、という点にあったと思います。留学を検討するモチベーションは様々でしょうが、限られた時間をどう活用するかをしっかりと考えて留学生活に臨めば貴重な経験が得られると思います。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。



東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名:全学覚書に基づく交換留学)

所属学部/研究科・学年(留学時):教養学部 地域文化研究学科 4年

留学先大学・学部/研究科等: ブリティッシュ・コロンビア大学

留学期間: 2011年9月 ~ 2011年12月

卒業・修了後の就職希望先: 民間企業

1. 留学先大学の概要

ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ、バンクーバー)

2. 留学の動機

卒業論文執筆の資料収集および、研究テーマに関連した授業を受講するため(主に映画研究に関する授業)。

3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学が決まった後は、留学先大学が指定する書類をそろえて東京大学の国際交流課まで持って行きました。詳細はブリティッシュ・コロンビア大学のホームページをよくチェックし、分からないことはアドバイザーにメールにて聞きました。必要なことは全てホームページに載っていて、またメールでも指示が来るので定期的にチェックをしていれば大丈夫だと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

カナダでは、滞在が6ヶ月以内であれば就学ビザは必要ありません。私の場合、留学は4ヶ月間であったためビザの取得は必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に行いませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京海上の留学保険に入りました。それ以外にも留学先の医療保険(こちらは必須)にも加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

卒業までに必要な単位について再度確認を行い、留学届を所属学科に提出しました(学科の主任教員の印鑑が必要なことがあるので要確認)。私の学科では卒業論文の題目提出が11月にあったため、あらかじめ学科の友人に提出の依頼をしておきました。学科によって卒論の題目提出など重要書類の提出期限が異なるため、4年生で留学する人はよく事前に確認することをおすすめします。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

特に行いませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

基本的には現地ですべて手に入るため特に必要なものはありませんが、薬やコンタクトレンズなど処方箋が必要なものは日本で用意して持って行った方がいいと思います。

4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学のキャンパス内の寮に住んでいました。(寮の名前: Walter Gage Residence)

一人部屋ですが、キッチンやリビングルームは 6 人でシェアをします。Gage はキャンパス内で便利な場所にあるので、おすすめです。

また、大学のホームページに各寮について詳細がのっているので、事前によく見て検討することをおすすめします。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

・天候:バンクーバーはカナダの中では温暖な方ですが、年によって雪もかなり降るようです。ただ私がいる間、雪は 1 回しか降りませんでした...

・食生活:食事に関してはキッチンのついている寮ならば自炊できます。(Gage はキッチンがあります)

キッチンのない寮(Place Vanier や Totem Park)に住む場合は、大学のカフェテリアなどで使える Meal Plan というものを購入しないといけません。

・お金の管理:大学のキャンパス内にいくつか銀行があるので、現地に着いてすぐにそのうちのひとつの銀行で口座を開きました。身分証明書(パスポートとそれ以外にもうひとつ)を持って行けば、すぐに口座が開けます。私は Citibank にも外貨預金口座を持っていたため、現地の ATM でまとめて Citibank の口座からお金を出し、現地で開いた口座に移して使っていました(Citibank の ATM はあまりなく、他の ATM で Citibank 口座のお金を出す際は手数料がかかるため)。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

・治安:基本的には安全ですが、夜歩くときにはやはり注意が必要だと思います。キャンパス内であれば Safewalk というシステムがあり、決まった番号に電話をすると目的地まで危なくないように学生のアルバイトと一緒に歩いてくれます。

・医療機関:大学に病院があり、無料で診察を受けられます(加入必須の医療保険で補償されているため)

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

10 万円/月(寮費 5 万円+食費 4 万円+雑費 1 万円)

・留学に要した費用総額とその内訳

約 95 万円

【内訳】

飛行機代 25 万円

月々の生活費 10 万円 × 4 = 40 万円

保険料 5 万円

その他旅行費など 15 万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

東京大学国際学術交流活動等奨励事業より、月 10 万円。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

大学にあるジムを利用。その他にもダンスクラブに所属し、社交ダンスを習いました。
週末はバンクーバー近郊で観光地をまわったり、ハイキングに行ったりして友達と過ごしていました。
また大学から2時間ほどでウイスラーというスキーリゾートへ行けるので、2泊3日でスキーをしに行きました。

⑦留学中の就職活動等への対策(行った場合)
特に行っていません(就職活動は留学前に行ったため)

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

FIST100 Introduction to Film Studies

FIST300 Cult Cinema

FIST434A Horror Films

FIST436 American Cinema Since 1960

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業:講義スタイルの授業とセミナースタイルの授業があり、セミナーの方では講義よりもディスカッションやプレゼンテーションに重きがおかれています。

予習:基本的にはリーディングが宿題となります。

課題:私の受講していた授業では、ライティングの課題が多かったため日々沢山のレポートを書いていた。課題に関しては授業により形式が異なります。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一つの科目が3単位で、一学期間で最低9単位取得します(科目数としては3科目)。平均としては12単位を取得する人が多いようです。

一科目あたり週の授業時間は3時間程度なので、4科目取ると週9時間程度、学習時間は一日4~5時間×6日あるいは7日といったところだと思います。

④学習・研究面でのアドバイス

はじめのころはリーディングに追いつくのが大変かもしれませんが、慣れてくれば要領がつかめると思います。

なにか学習面で困ったことがあれば、とにかく授業の教授に相談してみることをおすすめします。大変親切に相談にのってくれると思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

英語でのディスカッションに慣れるのが大変でしたが、自分で目標を立て(毎回のディスカッションで必ず発言するようにするなど)その目標をひとつずつクリアしていくことで、上達できたと感じました。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生ははじめにGALAという留学生受け入れのための団体が開くオリエンテーションに参加します。一年を通してこの団体はイベントを開いたりしているので、参加することで違う学部の留学生とも友達になれます。またGALAのス

タッフは大変親切なので、何か困ったことがあれば相談にのってくれると思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学内にジムがあり、各クラブもさまざまな活動を行っているのでスポーツに関してとても充実しています。

図書館も複数あり、勉強場所としても資料を探しに行く場としても最大限活用すると思います。

パソコンは学内に使えるものがありますが、常に込んでいるので自分のノートパソコンを持ち歩く人が多いです。キャンパス内はどこでも Wifi に接続できます。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学を通して得られたものはたくさんありますが、何よりも人との出会いに恵まれたと思います。留学先で会った友達とは帰国してからも頻繁に連絡を取っていますし、これからも機会があればお互いの国を訪ねることがあると思います。様々な国の様々な文化の人たちと出会い、共に生活できたことが私の中で一番の財産となっています。

②留学後の予定

帰国後卒論を提出し、2012 年春に卒業する予定です。その後民間企業に就職して東京で働きます。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学は、一生の思い出になる本当に貴重な機会だと思います。日本から一步出てみるのは勇気がいることでもあります。絶対に後悔はしないと思います。ぜひ海外に出て沢山のの人たちと出会い、日本を外から見つめてみてください。ありきたりなようですが、留学をすることで視野が広がり、今までとちがった自分を発見できるのではないかと思います。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

留学中、バンクーバー近郊の観光などをする際には、yelp というサイトを利用していました。

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: 全学交換留学)

所属学部/研究科・学年(留学時): 教養学部地域文化研究学科4年

留学先大学・学部/研究科等: ブリティッシュ・コロンビア大学 Faculty of Arts

留学期間: 2011年9月 ~ 2012年4月

1. 留学先大学の概要

University of British Columbia (UBC)は、カナダ、ブリティッシュコロンビア州バンクーバーに位置する州立大学である。UBCは1908年に創立された後拡張を繰り返し、現在は54000人以上の学生数を誇るカナダのもっともすぐれた研究大学の一つとなっている(UBCホームページより)。また、各種大学ランキングにおいても常にベスト40以内にランクされており、経済学や自然科学をはじめとして様々な学問分野において世界的に著名な研究がなされている。

キャンパスに関しては国際色が豊かで、140以上の国から学生が集う。交換留学も盛んになされており、2011-2012期には500人以上の交換留学生在がUBCを訪れた。また大学敷地内にはMuseum of Anthropology(MOA)やBiodiversity Museum等の博物館があり、学生のみにとどまらず、幅広い学問の機会を提供している。

2. 留学の動機

元来在日外国人や移民の問題に関心があったため、多文化主義を採用しているカナダに留学したいという思いがあった。カナダの大学の中でも、移民関係の授業が充実しており「移民学」として副専攻のコースが設定してあるUBCを希望するに至った。

さらに、自分の英語力に関してもさらに向上させたいと考えていたため、8か月間英語ですべてをこなさなければならない留学は絶好の機会であると考えていた。

3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学の手続きに関しては、すべて大学側からEmailで通知が来るので、随時にEmailをチェックしていた。また、Facebookで留学生用のグループが開設されるので、そちらも定期的にチェックするようにしていた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

6か月以上の留学は、Study Permit(留学ビザ)が必要になるので、時間に余裕をもって取得した。書類はカナダ大使館のホームページからダウンロードし、カナダ大使館(青山)で手続きを行った。なお、郵送でも手続きが可能とのこと。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

日本での保険加入はせず、BC州政府の保険に加入した。ただ、この保険では診療費はカバーされるが、薬代はカバーされていないので注意すること。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学手続きを教務課にて行った。単位交換に関しては、可能であることを前提としていったのだが、教養学部ではAIKOM留学以外の単位交換に際して明確な規定がないので、6月の教養学部会でその可否が議論されるとのこと。正直単位交換を前提で留学したので、今回の件は衝撃を受けている。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFLは90を若干超えたくらいであったので、それほど高いレベルではなかった。ラジオや本など、なるべく英語に触れるような生活を心がけていたが、これといって特別に行った準備はなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本からは文房具を自分で持参したほうが良い。英語の語彙を増やす、履修予定の授業に関する本を日本語でもよいので読んでおく、などとすると留学後の勉強を楽に進められると思う。また、就職活動等を考慮して、スーツは持参したほうがよい。

4. 留學生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学校の寮(Totem Park)に住んでいた。UBC 内の寮は学校から案内があり、各自ホームページから申し込むので注意すること。私が住んでいた部屋は新築でやや広く、住み心地はよかった。トイレとシャワーは2人で共有。

学校外に住むこともできるが、家賃が高いこと、手続きが煩雑なことから勧めない。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候はカナダの中では比較的温暖で、日本の東北地方の気候とそれほど変わらないのではないかと。ただ雨は多い。UBC はダウンタウン中心部までバスで30分ほど、それほど不便はない。食事に関しては、日本よりもやや高め(外食の場合は税金+チップが別途かかるため)だが、アジア料理も充実しているため困ることはない。お金に関しては、現地の銀行に口座を開設し、日本から送金してもらった。

③危機管理関係(留學先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安に関しては、北米の中では比較的良好。ただ、East Hastings や夜のダウンタウンなど、近づかないほうが良いところもある。医療機関はUBCの中にUBC病院があるので安心はできる。ただ、現地で帯状疱疹を発症してしまい、保険でカバーされていない薬で請求が高額になってしまったことは不安だった。

④留學に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

10万円 (内訳 家賃:4万5千円 食費:4万円 娯楽費:1.5万円)

・留學に要した費用総額とその内訳

家賃:4万5千円×8か月 食費:4万円×8か月 航空賃:15万円 教科書代:5万円 娯楽費:1.5万円×8か月

旅行代:20万円 計120-130万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

なし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

後半の学期には、学校の授業関係で週に一度ボランティア活動を行っていた。具体的には Vancouver 近郊の Coquitlam で、ブータンからの難民の子どもたちに英語を教えていた。

長期休暇の際は米国に入り、Portland WA の知り合いを訪ねたり、Seattle を旅行したりしていた。

⑦留學中の就職活動等への対策(行った場合)

ボストンキャリアフォーラムへの参加と、現地の日本企業の方への訪問を行った。結果的に、ボストンキャリアフォーラムでは夏の長期インターン(外資系投資銀行)を獲得することができた。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

SOCI 303A

CHIN 203

CHIN 107

ASIA 309

HIST 485

GEOG 353

CSIS 300A

CHIN 105

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業に関してはクラスによってさまざまであるが、300番台・400番台の授業に関しては、基本的に50から60人の中規模の人数で、先生の講義を中心に、グループプロジェクトやディスカッション、プレゼンテーション等が織り交ぜられている感じであった。基本的には、生徒の参加度合いが高い授業が多い。授業における積極的な貢献が求められるため、自分で授業の文献・本を読む傍らグループのプロジェクトを進めなければならない、1科目あたりの負担は大きい。印象に残っている授業としては HIST 485 があげられる。この授業はバンクーバーのアジア系コミュニティについて学ぶ授業であったが、バンクーバーのレストラン経営者にインタビューを行ったり、グループで移民学に関するホームページを作成したりするなど、極めて創造的な授業であった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり4科目、12単位を履修していた。これはUBCの一般学生のほぼ平均であると思われる。1科目につき授業が週に2~4回あるので、4科目履修すると東京大学教養学部でいえば12から15科目を履修しているような感覚であった。授業外の学習時間については平日の授業の後や日曜日を中心に文献を読み込んでいた。やはり現地の学生に比べて英語の読解が遅かったため、相当な時間を要していたように思う。

④学習・研究面でのアドバイス

教授・TAと積極的に話すこと。普段授業に参加しているだけでは交換留学生だということがわからないので、教授側もサポートのしようがない。オフィスアワー等を積極的に活用すれば、学習を円滑に進めるヒントを与えてくれるだろう。レポート等に関しても、初めての形式に戸惑うことが多いと思うので、いったん下書きしたものを先生に見てもらおうといいだろう。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

とにかく何か新しいことを始める、友達に何か誘われたら断らないで色々なことにチャレンジしてみることが重要だろうと思う。たとえ語学面で苦勞があったとしても、なにか活動(スポーツやボランティアなどなんでもよい)と一緒にやっていると英語を話せる友人をたくさん増やしていくことが言語面で慣れていく近道ではないだろうか。語学に関しては、3か月を過ぎたあたりから少しずつ成長を実感できると思う(とくにスピーキング)。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

UBCは700人の交換留学生がいるため、個々人に合わせたサポートというのは若干薄い印象がある。ただ、なにか問題があるときには、International House を訪ねれば丁寧に対応してくれる。精神的に問題があるときには、学校でカウンセリングサービスを行っているということなので、利用するとよいだろう。寮生活に関しては、学生の Residence Adviser (RA) がいるので問題があるときには相談するとよい。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

非常によい。図書館は複数個あり、自習スペースが多数ある。ただテスト直前は勉強場所を確保することが困難になることもある。学内にはジム・プールが完備されているので、運動するには困らないだろう。食堂に関しても、バリエーションは多い。PC環境に関しては、全学でWiFiが整備されており、備え付けのパソコンもあるので問題はない。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学を通して、欧米圏の大学でも自分の力でなんとかやっていると自信がついたように思う。また、ジェンダー学・移民学など東京大学であまり開講されないタイプの授業を受けることができたのも収穫のひとつであろう。さらには授業の中でグループプロジェクトが多かったので、文化的な背景が一人ひとり違う中で、いかにして円滑にコミュニケーション

ンを行い、いかにして自分がグループに貢献すべきなのか身を以て考えさせられた。最後に、留学したことによって、自分が日本や東京大学でいかに恵まれた環境にいるか気づかされたのも新鮮だった。

②留学後の予定

UBCでは移民学に関する知識を体系的に学べたので、これを礎に今後の東京大学での授業や卒業論文の執筆を行っていきたくて考えている。また、今年度中にすべての単位を取得し、2013年度に卒業することを目指しているが、今後の進路については未定である。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学をすることには本当に多くの良い点があると考えていたし、実際帰国後も留学してよかった、と感じています。留学で得られることは、単純な知識や語学力にとどまりません。ただ、「何のために留学したいか」ということを出国前に突き詰めて考えることは大切なことでしょう。そこで出した結論は、留学中に悩んだ時にきっと心の支えになってくれると思います。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。ただ東京大学教養学部のホームページは留学中随時チェックしていた。(次年度の奨学金の申請や寮関係・授業関係などは、留学中は忘れがちになってしまうので。)

②その他留学中の写真などがあれば添付してください。



UBCのオリエンテーション、Stanley Parkにて。



バンクーバーオリンピックも開催されただけあって、ウィンタースポーツは盛ん。